

第4章 テクノロジーを活用した発達障害のある人の就労マニュアル

第4章 テクノロジーを活用した発達障害のある人の 就労マニュアル

第1節 マニュアル作成に当たっての視点

本調査研究によって、発達障害のある人の就職を目指す職業訓練が就労の促進に結び付くケースがまだまだ少ないことや、就職をしても障害のない人以上に無理をして頑張ってしまうため、仕事だけではなく日常生活においても大きな負担が生じ、その負担のため仕事に身が入らなくなり休みがちになり、最終的には退職に追い込まれ継続的な就労が少ないこと等も確認できた。

本報告書の「テクノロジーを活用した発達障害のある人の就労マニュアル」は、第2章に記載した実態調査結果等に基づいて、就労において障害特性に応じた配慮の方法等の具体的事例として整理したものであるので発達障害のある人の負荷を軽減し就労を継続できる職場の実現に役立つものと考えている。

本マニュアルは、①個人の障害機能を補償し増強する支援技術の利用に対する配慮、②個人の就労環境の整備や調整への配慮、③個人の障害特性に応じたコミュニケーションへの配慮、などの視点からできるだけ分かりやすく、見やすく、そして手軽に利用していただける分量とした。

第2節 「テクノロジーを活用した発達障害のある人の就労マニュアル」の構成

2-1 全体構成

マニュアルの全体構成として、実態調査をした当事者の困難・課題・問題を会社に出勤する一日の流れの中にあてはめて紹介する。

また、各事例を「感覚」「注意／記憶」「理解」「表出／行動」「自己管理」のカテゴリーでも分類している。

(1) 出社前～出勤

- ① 服をどう選んでいいかわからない「表出／行動」
- ② いくら気をつけても忘れ物をしてしまう「自己管理」
- ③ 満員電車が辛い「感覚」

(2) 事務・作業

- ① 感覚過敏があり、作業が辛い「感覚」
- ② すぐに気が散って手が止まる「注意／記憶」
- ③ すべきことを忘れてしまう「注意／記憶」

- ④ いくら注意してもミスを繰り返してしまう「注意／記憶」
- ⑤ メモがとれず同じ質問をしてしまう「理解」
- ⑥ 優先順位を決めたり、段取りすることが上手くできない「表出／行動」
- ⑦ 見通しが立たないことや、突然の予定変更があると辛い「表出／行動」

(3) 休憩

- ① 過集中で休憩のタイミングを逃してしまう「注意／記憶」
- ② 休憩時間をどのように過せばいいのかわからない「表出／行動」

(4) 接客・電話

- ① 話している相手を怒らせてしまう「表出／行動」

(5) 会議

- ① 多くの人が同時に話すとうまく聞き取れない「注意／記憶」
- ② 話しの内容がよくわからない「理解」
- ③ 何を話せばいいのかわからない「表出／行動」
- ④ 目的地にたどり着けない「表出／行動」
- ⑤ うっかり居眠りしてしまう「自己管理」

(6) 帰宅後

- ① 夜になかなか眠れない「自己管理」

2-2 各事例の構成

それぞれの事例ごとに下記の内容で構成している。

- ① 発達障害のある人（当事者）の視点から自身の持つ困難・課題・問題
- ② 職場の人（上司、同僚）の視点から感じている、受けている印象
- ③ 対応する一般的な解決策の例
- ④ 解決策の例を参考として配慮する際の注意点